

幕張車両センター労災死亡事故

「しっかりした技術を持つ会社へ委託した」?!

7/16 団体交渉での主なやりとり

- 「時系列で事実経過を明らかにすること」
→CTS「当社が委託している業務に従事していた作業員が体調不良で救急搬送された」
- 「委託内容と作業量は？」
→CTS「秩父商会とは22年11月から契約」
- 「さらに丸投げ外注化されたことを把握していたのか」
→CTS「当社は秩父商会に依頼した」
- ⇒当該の方が亡くなったこと、秩父商会からさらに丸投げ外注化されたことも触れない。
業務委託の内容、作業量についても隠したまま。

こんな無責任は許されない！

問題の根本は、JR東日本から始まる無責任きわまりない丸投げ外注化であり、多重下請け構造にあります。それが取り返しのつかない事態を引き起こしたのです。

現場の命と安全をないがしろにするJR・CTSを許すことはできません。職場からともに怒りの声をあげよう。

JR・CTSに怒りの声を

それをすべて知りながら、「しっかりした会社へ委託した」など、どうして口にすることができなのでしょう。本当に怒りに耐えませんか。

性にされたのです。

あまりにも不誠実で無責任です。いったいCTSは、一人の労働者を犠牲にしたことを何だと思っているのでしょうか。

翌17日には、労働委員会における証人尋問でCTSの笹本総務部長は衝撃的な証言を行いました。今回の事態について、「しっかりした技術を持った会社（秩父商会）に委託した」と証言したのです。

実際には、業務はさらに丸投げ外注化され、秩父商会は現場にすらいませんでした。そして「5名中2名がタイミー労働者」という中で、初めて作業に入った労働者が犠牲にされたのです。

労働者を犠牲にしたことを何だと思っているのか！

動労千葉は7月16日、幕張車両センターで6月21日に発生した労災死亡事故について、CTSと団体交渉を行いました。

何とCTSは、職場に張り出されている「速報」すら団交に出さず、当該の方が亡くなったことにも触れません。22年のCTSから秩父商会への外注化当時から再度丸投げ外注化されていたのに、そのことにも頑なに触れようとしません。